

# 五輪より防災・福祉へ

## たぞえ都議が知事に求める

日本共産党のたぞえ民夫東京都議は、15日の都議会本会議で討論を行い、放射能から子どもを守る対策や防災対策、くらし・福祉に冷たい石原慎太郎知事を批判し、自治体としての責任を果たすよう求めました。

たぞえ氏は「放射能汚染から子どもを守れ」の声があがっていることをあげ、内部被ばくによる健康被害を



都民夫たぞえが立つたに討論  
議本会都議、15日

防ぐために万全をつくすよう強調。都立公園で毎時7容積、杉並区立小学校の芝生養生シートから1キログラムあたり9万6000倍の高濃度地点を発見できたのは測定したからだと言及。今後、都有施設や学校の測定は不要とする都の姿勢を批判し、

を要求しました。防災対策について、都営住宅の耐震化70%未満、浄水施設の耐震化0%、東部地域の河川堤防も6割にとどまるなど耐震化の遅れを指摘し、都市施設や建築物の安全化に全力を注ぐよう求めました。

と、学校給食の食材・調理後の測定を求める区市町への支援の強化を拒む一方で、2020年五輪招致を口実に1億1億円の外環道建設などの浪費を推進することを批判。「都民は五輪より震災復旧、防災・福祉の充実こそ望んでいる」と強調しました。

豊洲新市場予定地の

土壌汚染対策工事をめぐり談合疑惑について、都は談合に関わる一切の情報を明らかにしないまま契約を適法としたことは「臭いものにフタ」を買い、豊洲移転を強行し

ようとする立場」だと批判しました。たぞえ氏は「今後とも、何よりも都民福祉の増進と安全・安心第一の都政に転換するよう全力を尽くす」と表明しました。